

はしがき

本報告書は、神戸大学大学院国際文化学研究科異文化研究交流センター(Intercultural Research Center、通称 IReC[アイレック])の 2010 年度研究部プロジェクト「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——その理念、現実、表象」の活動をもとに編集した。プロジェクトの概要は以下の通りである。

プロジェクト名：ヨーロッパにおける多民族共存と EU——その理念、現実、表象

代表者：坂本千代（地域文化論講座）

分担者：

三浦伸夫（異文化コミュニケーション論講座）

石川達夫（地域文化論講座）

藤野一夫（現代文化論講座）

岩本和子（現代文化論講座）

坂井一成（異文化コミュニケーション論講座）

寺尾智史（地域文化論講座）

秦美香子（神戸大学学術推進研究員）

松井真之介（異文化研究交流センター協力研究員）

プロジェクトの目的と必要性

今年度の目的は原則的に過去の 2 年間のプロジェクト（代表：石川達夫）「多言語・多民族共存と文化的多様性の維持に関する国際的・歴史的比較研究」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——多民族共存への多視点的・メタ視点的アプローチ」を引き継いでそれをさらに発展させることを目的とした。長い歴史において多民族が葛藤と融和を繰り返してきたヨーロッパ内で、現在の世界に大きな影響力を持つ EU とそれ以外の地域を研究対象とすることは昨年と同じであるが、今年は特に多民族共存の理念の問題及びその現実（言語・文化政策など）、そして文学をはじめとする芸術分野でのその表象を考察した。

本プロジェクトの必要性については、石川前代表が以前から主張してきたものであるが、今回も繰り返して述べておきたい。多民族共存の問題をめぐって今日特に重要な課題として浮上しているのは、異なる民族が同じ場所に共存してはいても、必ずしも十分な相互理解はしておらず、そのために互いの主張・立場・視点がうまくかみあわないため、十分な相互理解に基づいた平和的な共生の条件が整っていないこと、そのためひとたびテロや経済危機などがおこると、昨日までの隣人がとたんに不気味で異質な異邦人と化してしまい、そこに思いもかけない民族的軋轢や衝突が発生するという問題である。このような問題に関して、「多民族共存」という理念そのものの成立の歴史的経緯、およびその理念が適用さ

れた現実（これは今までその詳細が必ずしも我々にとっては明らかでなかった）、またその現実がいかに解釈され構成されて芸術作品などに表象されているかを研究することは、総合的・包括的な提言あるいはローカルで具体的な提言を探求することと同じくらい必要であると信じるものである。

プロジェクトの活動

今年度の活動も過去2年間を引き継ぐものであり、各メンバーが以下の活動を進めた。

- ・ ヨーロッパにおける実際の多民族共存の場とそこで生じてきた問題について、通時的・共時的に分析・考察した。
- ・ EU、ヨーロッパ各国、国連などが、多民族共存、マイノリティと少数言語保護等のためにいかなる理念を掲げ、いかなる政策を実施してきたかを分析・考察した。
- ・ ヨーロッパにおける多民族共存あるいは多文化共存が芸術作品や文化活動においていかに解釈され表象されているかについて分析・考察した。
- ・ 外部から研究者を招いて講演会と研究セミナーを開催した。

2010年に本プロジェクト主催で行った講演会および研究セミナーは、以下の通りである。

- 1) 2010年7月26日(月) 研究セミナー「EUにおける少数言語保護政策——東方拡大とその後」(講師：坂井一成)
- 2) 2010年9月30日(金) 講演会(メディア文化研究センターとの共催)「異境からのまなざし——テオドル・W＝アドルノの社会的・美学的著作における亡命経験」(講師：エバーハルト・オルトラント)
- 3) 2010年10月29日(金) 研究セミナー「少数言語の言語政策——オクシタン語、カルカッソヌのデモ行進から」(講師：佐野直子)、「EUにおける少数言語保全と『人の移動の自由』原則」(講師：寺尾智史)
- 4) 2010年12月3日(金) 講演会「21世紀のフランス文学——資本・越境・記憶」(講師：野崎敏)
- 5) 2010年12月22日(水) 研究セミナー「ミランダ語と映画『日本からミランダの大地へ』——フィールドワーカーがインフォーマントに映像として料理される位相」(講師：寺尾智史)
- 6) 2011年2月8日(火) 研究セミナー「現代フランスにおける多文化共存の実情」：「学校の設定から見るフランスのマイノリティ——地域マイノリティと移民マイノリティ」(講師：松井真之介)、「『私のニカブの下に』を読む——移民、女性、イスラーム」(講師：坂本千代)

以上のような今年度の活動の成果を来年度の活動に生かし、さらに発展させていく予定である。

坂本千代(国際文化学研究科教授・異文化研究交流センター研究部長)